

## 東北大学関東良陵同窓会

### 令和元年度 関東連合総会開催

令和元年六月十五日(土)、東京・市ヶ谷私学会館アルカディアにて、関東連合春季総会が開催された。

当日は関東から二十二名の良陵同窓生が集まり、和やかに開催された。

午後四時三十分から、総会が開始された。

押田会長が「押田体制七年目になり、若い会員の確保が大きな目標となっています。そこで関東在住と思われる比較的若い良陵会員に『若い良陵の会』の連絡を差し上げましたが、今年も盛会でした。今後の課題として、更に継続的に現役教授などにも働きかけ、若返り政策を進めてゆきたいと思えます」と挨拶した。

次いで、岩瀬幹事長より、経過報告があった。

そこでは「若い(と思っている)良陵の会」の詳細が報告された。続いて、清澤会計担当幹事より会計報告がされ、会費の値上げ後の報告があり、会計監査報告がなされ、会計報告と予算案が承認された。

更に、飯野ゆき子女性医師担当幹事より女性医師の会の報告があった。

午後五時から、大野曜吉先生(昭和五十三年卒、日本医大名誉教授)より「再審事件を振り返る」との演題で特別講演が行われた。琉球大学助教授時代に経験したあ

のトリカブト事件に関しては、「トリカブト事件と私」と題する別冊が出席者全員に配布され、定年間に再審無罪になった、松橋(まつばせ)事件に関して、詳細に報告された。事件は1985年に熊本県にて発生した殺人事件で、懲役13年の刑が確定して、2012年に再審請求した。弁護団から鑑定を依頼されていた。東北大学法医学教室の正義を貫く方針を実行した鑑定の結果と刑事裁判の問題点をスライドで詳細に説明した。この講演の感動は参加者全員にも伝わり、師匠の故赤石教授も喜んでおられる講演であったと感激した。

午後六時から、会場の場所を移して懇親会が行われ、アフターディナー・コンサートでは、例年とは異なり、高橋 明先生(昭和五十三年卒)とセントモ(洗足音楽学園共に歩み隊)の弦楽五重奏団の美しい演奏が披露された。高橋先生は、東北大脳神経外科に入局し、教授になったが、平成二十九年に自己退職し、チェロに命をかけ、被災地に音楽を届ける活動をしていた。今回は洗足学園音楽大の学生と組んで、G線上のアリアなどクラシックのみでなく、北国の春など、そして最後は「ふるさと」を演奏、参加者全員で合唱して盛り上がった。

若干の近況報告等も行われ、最後に飯野副会長が今後に向けて決意を述べて閉会した。

東北大学良陵同窓会関東連合会 会長 押田茂實

(会費納入のお願) 前年度総会に於いて改訂された年会費金五千円のご納入を四ページ記載要領にてお願いいたします。振込手数料は不要です)

# 関東良陵だより



写真右 関東良陵連合同窓会春期総会に集まった先生方  
最前列左端は講演者の大野曜吉先生・右隣は押田会長先生

特別講演後の感想

大野曜吉

昭和53年卒

日本医科大学名誉教授

日本医大を定年したばかりの2019年6月15日、関東良陵会で、法医学鑑定、特に再審請求事件（松橋事件）を中心に講演した。琉球大学助教授時代の法医学解剖例である「沖繩トリカブト事件」については省略し、代わりに定年に際して作成した「トリカブト事件と私」なる冊子を参加者計22部配布した。松橋事件は、1985年に熊本県松橋町（当時）で発生した刺殺事件で、被害者の将棋仲間である宮田浩喜さんが警察の執拗な聴取に負けて犯行を自供、裁判で一転無罪を主張するも、懲役13年の刑が最高裁で確定、出所後の2012年熊本地裁に再審請求したものである。再審を支援する弁護団の依頼で1997年熊本地検に赴き、証拠物である被害者の着衣の傷の詳細な検査を行ったのが、この件に長く関与する始まりだった。検察側鑑定人の主張する「押し下

げ現象」（刺入時に皮膚が刃先で押し下げられ、皮膚が切れた直後、皮膚がまだ陥凹した状態で素早く引き抜くと凶器の形状より細長い創洞が形成されうる、という説。これによるとどんな刃器も刺創と矛盾しないことになる）を打破すべく、ブタを用いての刺創形成実験はじめ種々の検証実験を行い、更に被害者の着衣に形成された創と併せて検討することで、被害者の14の刺創のうち少なくとも2つは凶器とされた切り出し小刀では生じえないとの結論に至った。2016年熊本地裁、2017年福岡高裁でいずれも再審開始決定がなされ、検察側の特別抗告も2018年10月最高裁で棄却され、2019年3月28日再審無罪が確定した。9月には刑事補償金約6千万円の交付が決定し、弁護団はさらに国家賠償請求訴訟も検討しているようだ。定年記念として法医学者冥利に尽きるといつて過言でない。懇親会の席で押田翠・飯野ゆき子両先生から頂いた「緻密な仕事」とのお言葉は何よりの宝物となった。『琅玕のひとつまもりて年経しと誰にか告げむ木々に鳥啼く』（父・大野誠夫）

## 第二十二回 関東良陵同窓会

女性医師部会定例会報告

飯野ゆき子（昭和49年卒）

本会幹事女性医師部会担当

関東良陵同窓会・女性医師部会定例会は令和元年（2019年）で、第二十二回を数え、令和元年7月6日（土）に開催されました。昨年は思い切つて場所を変え、パレスホテル東京1Fグラウンドキッチン ガーデンルームで行つたところ、多数のご参加をいただき、大変好評でした。しかし講演と懇親会を同じ会場で行わなければならぬという制約がありました。そこで今年はまだ場所を変え、丸の内二重橋ビル内の外国人記者クラブでの開催となりました。外国人記者クラブはこれまで有楽町の電気ビル内にありましたが、今年の4月に新築の丸の内二重橋ビルに移転したばかりでした。とても綺麗で広々とした会場で、かつ皇居の近くというとても素晴らしい環境で行うことができました。参加者は押田茂實会長、飯野正光副会長、荒井他嘉司理事、高橋慎一郎事務局担当の4名の男性を含め、昭和33年卒の佐瀬クララ先生から平成27年卒の鈴木球梨先生まで計29名でした。おそらくこの女性医師部会定例会が開催されるようになってから過去最多の参加人数であつたと思います。懇親会に先立ち東京大学医学部付属病院臨床研究支援センターの坂中千恵先生（昭和62年卒）に

「日本の臨床研究の現状」というタイトルで1時間の講演をお願いいたしました。これまであまり伺つたことのない分野のお話で、大変興味深く拝聴いたしました。非常にわかりやすく、臨床研究のあり方やその問題点などにも話が及び、たくさん質問が寄せられました。このような分野にも女性医師が活躍していることを知り、とても嬉しく感じました。会場を移し、その後美味しいお食事とワイン等の飲み物をいただきながらの懇親会が持たれました。着席でのフルコースで、テーブルごとに和気藹々とお食事、お喋りを楽しみ大変盛り上がりました。また全員からの自己紹介とスピーチをいただきました。先生達の近況やご苦労話、また若い先生たちがとても張り切つて仕事に励んでいるお話などを聞いて、大変楽しい時を過ごしました。良陵会の女性医師は皆とても素晴らしい、色々学ぶことが多いと思えます。また各科の垣根を超えての情報交換もできます。やはり同門として今後とも色々な場面でお互いにお願ひすることもあると思ひます。このような定例会に今後さらに多数のご参加があればと思ひます。来年（2020年）の女性医師部会定例会は現在のところ、7月第2土曜日の11日（土）に開催予定となつています。まだ場所等具体的なことは未定ですが、魅力的なプログラムを準備したいと思ひます。ぜひ定例会には多数の女性医師のご参加をお願いいたします。

## 女性医師部会講演後の感想

坂中千恵（昭和62年卒）

東京大学医学部付属病院

臨床研究支援センター

現職・バイエル薬品(株)研究

開発本部

令和元年7月6日（土）丸の内外国人記者クラブで開催された関東良陵同窓会・女性医師部会定例会で、講演する機会をいただきました。

実は卒業すぐ仙台を離れ、海外生活も長かつたため、同窓会などに関わることなく過ごしておりましたが、縁あつて部会長の飯野先生にお声がけいただき、昨年から女性医師部会に参加しております。昨年の会では、各分野で活躍されている諸先生のお話を伺い、また女性医師のバイオニアとも言える大先輩の先生方にもお会いでき、随分パワーをいただけて帰つたことが思ひだされました。

二回目の今年に、思ひがけず講師をとお話があり、躊躇する気持ちもありましたが、毛色が変わつた内容も興味をもつていただけののかも、と僭越ながら引き受けさせていただいた次第です。私は2016年から東大病院で臨床研究の推進支援に関わっており、その経験も踏まえて「日本の臨床研究の現状」というテーマを選びました。治療、臨床研究、GCPなどといった領域は、私が東北大学の学生であつた頃には、大学での教育には含まれておらず、将来自ら治療に関わることになるなど想像もしていません

でした。しかし、海外のバイオテック企業で創薬研究に携わり、帰国してから薬事などにも関わるなかで、日本と海外の臨床研究や薬剤開発の取り組みの違いを意識するようになりました。医学・医療の発展に、薬は欠かせないものであり、薬を創り患者さんの手に届けるまでの長く困難なプロセスにおいても、医師の関与が大変重要であることはあまり認識されていまいように思ひます。また、ドラッグラグは解消されてきていますが、優れた基礎研究の結果を日本国内で薬剤開発に結びつけるような仕組みも、まだ十分出来上がつていないといえませぬ。製薬業界は世界的にも変化のスピードが早くなり競争も激しくなつてきている状況です。数年来臨床研究、核病院の整備や臨床研究法の制定など様々の施策が出されるなかで、日本が世界に取り残されないように、日本の患者さんに早く良い薬が届けられるように、どうすれば良いのか引き続き考えていきたいと思ひます。

今年の会も、同級生に卒業以来の再会をしたり、同職場で非常にお世話になつた先生が実は先輩であることが判明したり、と驚きのある楽しい時間を過ごしました。世代や専門を超えた交流の場は、大変貴重であると感じます。また来年も皆様にお目にかかるのを楽しみにしております。このような素晴らしい会を取りまとめてください。飯野ゆき子先生に、あらためて感謝申し上げます。

# 近況報告

## 同窓会に行ける幸せ

### 清澤源弘

(昭和53年卒)

本会常任幹事・会計担当

清澤眼科医院・院長

会計担当幹事の清澤源弘です。坂間先生から引き継いで、昨年から関東東良同窓会の会計係をお引き受けしています。実務は事務局の高橋さんと医院の秘書さんに、これも医院宣伝業務の一部と無理を言つてやつていただいております。

私は十五年前に江東区に開業しました。開業後の趣味は、ブログ清澤眼科医院通信で眼科に関する小話や社会経済に関する小話を毎日記載することです。すでに11000項目になりました。最近、従来のライブドアブログから自前のサーバーに引っ越ししました。また、そんなことから関東東良同窓会のホームページ管理も頼まれています。修正の必要な箇所などありましたらお知らせください。  
私は昭和53年東北大学医学部卒で水野勝義教授が主宰する眼科教室に



清澤源弘先生

入局しました。二年後に大学院に進学し、最初の年には、北里大学眼科教室に神経眼科学の修行に国内留学させていただきました。石川哲教授は東北大学の先輩であり、一年間楽しく病棟医として神経眼科学の修行をしました。仙台に戻って、一時消えていた神経眼科外来を再建し、脳外科や神経内科の先生とともに、広南病院の神経眼科外来を担当したり、松沢大樹先生の抗酸菌病研究所放射線科でPET核医学を学び学位をいただきました。その後海外留学ののち仙台に戻り、三年後に先輩の紹介で平成4年に東京医科大学に移動したという経緯です。



良陵同窓会事務に協力する  
清澤眼科医院スタッフの皆さん

萩友会（東北大学全学同窓会）からお知らせ

林泉（昭41卒）

① 萩友会主催イベント

\*2020年5月16日（土）

東北大学懇談会（萩友会プレミアム会員懇談会）

\*2020年6月28日（日）

113年関東交流会（ステーションヨソコンファレンス東京）

\*2020年秋季開催113年ホームカミングデー（川内萩ホール）

\*2020年10月頃（土）関東萩友会卒業会

（明治屋ホール7階）

② 良陵会と萩友会

全国の大学の動きとして、同窓会は各学部をまとめた大きな会へと進みつつあります。

東北大学でも各学部の名簿を萩友会がまとめて作成し、情報を提供しようとの動きがあり、関東東良同窓会もその方針に従う方針です。

## 春期総会アフターディナー

### コンサート感想♪

アフターディナーコンサートは、昭和53年卒の高橋明先生を中心とする、洗足音大学生生クラブ「洗足共に歩み隊（セントモ）」のクインテットの演奏でした。かつて東北大学の教授を務めた高橋先生が「音楽大学生として、チェロを弾き、若い同窓生と演奏をして頂き、参加者一同感動に包まれました。

東北大震災の復興の支援をしていただいたことで、人々に勇気を与える曲選びが良かったと思います。クラシックの合間に、北国の春が入ったり、最後にふるさとを皆で共に歌い大いに盛り上がりました。今後のセントモや高橋先生の「活躍をお祈り致します。

（昭59卒・本会幹事長）  
岩瀬 光



演奏するセントモ・クインテット  
写真右から二人目チェロを弾く  
高橋明先生

## 年会費の払込方法

この関東東良同窓会だより第48号に同封の「振込票」にて、「年会費五千円」のお振込をお願い致します。この度の新しい振込票（赤線枠）は振込料が無料です。

東北大学良陵同窓会

関東連合会東京支部

〒247-0072

神奈川県鎌倉市岡本

TEL&FAX 二二二一七〇四

TEL&FAX

〇四六七（四五）〇二八七

「関東東良同窓会だより」第48号

令和元年（2019年）十一月発行